

大学番号：私095

注3

[平成23年度設置]

計画の区分：学部の学科設置

注1

届出

敬愛大学 国際学部 こども学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 千葉敬愛学園
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 修学支援室

職名・氏名 シユウガクエンシツチョウ 修学支援室長 カトウ 加藤 シゲオ 茂夫

電話番号 043-251-6363

（夜間） 043-251-6363

F A X 043-251-6407

e-mail katou@u-keiai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に
()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 千葉敬愛学園

(2) 大学名

敬愛大学

(3) 大学の位置

〒263-8588

千葉県千葉市稲毛区穴川一丁目5番21号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コンドウ タツホ) 近藤龍夫 (平成19年4月)	(サンペイ トシオ) 三幣利夫 (平成25年4月)	前任者の任期満了に伴う変更 平成25年4月 (25)
学長	(ドイ オサム) 主井修 (平成18年8月)	(サンペイ トシオ) 三幣利夫 (平成24年6月)	前任者の任期満了に伴う変更 平成24年6月 (25)
学部長	(ナカムラ ケイゾウ) 中村圭三 (平成22年4月)	(タムラ タカシ) 田村孝 (平成26年4月)	前任者の任期満了に伴う変更 平成26年4月 (26)
学科長等	(ヨシカワ ヒロアキ) 越川浩明 (平成23年4月)	(タグチ イサオ) 田口功 (平成25年4月)	前任者の退職に伴う変更 平成25年4月 (25)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)

平成26年度に報告する内容 → (26)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
 ・ 様式は，平成23年度開設の4年制の学科の場合（平成26年度までの4年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し，5年以上の場合には，欄を設けてください。）

(5) - ① 調査対象学部等の名称，定員

調査対象学部等の名称（学位）	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際学部 こども学科 学士（こども学）	4年	50人 70	年次人 2	200人 284	50名 → 70名 (平成24年4月学則改正届出) (24) 50名から入学定員を70名、3 年次編入学定員を2名とした

- (注) ・ 定員を変更した場合は，「備考」に変更前の人数，変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は，「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	50人 (-) [-]	0人 (-) [-]	70人 (-) [-]	0人 (-) [-]	70人 (-) [-]	0人 (-) [-]	70人 (-) [-]	0人 (-) [-]	70人 (-) [-]	0人 (-) [-]	1.04倍	
志願者数	112 (-) [-]	(-) (-) [-]	124 (-) [-]	(-) (-) [-]	131 (-) [-]	(-) (-) [-]	147 (-) [-]	(-) (-) [-]	147 (-) [-]	(-) (-) [-]		
受験者数	110 (-) [-]	(-) (-) [-]	122 (-) [-]	(-) (-) [-]	129 (-) [-]	(-) (-) [-]	146 (-) [-]	(-) (-) [-]	146 (-) [-]	(-) (-) [-]		
合格者数	90 (-) [-]	(-) (-) [-]	93 (-) [-]	(-) (-) [-]	125 (-) [-]	(-) (-) [-]	138 (-) [-]	(-) (-) [-]	138 (-) [-]	(-) (-) [-]		
B 入学者数	65 (-) [-]	(-) (-) [-]	60 (-) [-]	(-) (-) [-]	69 (-) [-]	(-) (-) [-]	74 (-) [-]	(-) (-) [-]	74 (-) [-]	(-) (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.3		0.85		0.98		1.05					

- (注) ・ 数字は，平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には，編入学の状況について**外数**で記入してください。なお，編入学を複数年次で行っている場合には，(())書きとするなどし，その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には，留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は，春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は，その他の学期欄は「-」を記入してください。また，その他の学期に入学定員を設けている場合は，備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については，**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員，入学者数で算出**してください。なお，計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお，計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 65	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
2年次	/		[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			64		60		67		
3年次	/		/		[-]	[-]	[-]	[-]	
					63		60		
4年次	/		/		/		[-]	[-]	
							61		
計	[-] 65	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	262

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	65 人	4 人	平成23年度	1 人	0 人	家庭の事情(1人)	6.153846 %
			平成24年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人)、その他(1人)	
			平成25年度	1 人	0 人	就学意欲の低下(1人)	
			平成26年度	人	人		
平成24年度 入学者	60 人	0 人	平成24年度	人	人		0 %
			平成25年度	人	人		
			平成26年度	人	人		
平成25年度 入学者	69 人	2 人	平成25年度	2 人	0 人	その他(2人)	2.898551 %
			平成26年度	人	人		
平成26年度 入学者	74 人	0 人	平成26年度	人	人		0 %
合 計	268 人	6 人					2.238806 %

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)

・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。

・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。

・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、

【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

- (注)
- ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
29	131	0	160	29	124	0	153	(23)
				[]	[Δ7]	[]	[Δ7]	
				29	123	0	152	1科目廃止(24)
				[]	[Δ1]	[]	[Δ1]	
				29	115	0	144	8科目廃止(25)
				[]	[Δ8]	[]	[Δ8]	学部のカリキュラム改革に伴う科目の廃止(25)

(注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する (資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、
[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。

(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	近・現代の思想	2	1	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
2	公共の哲学	2	1	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
3	ロシア語Ⅰ	1	1	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
4	ロシア語Ⅱ	1	1	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
5	現代人口論	2	2	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
6	ジェンダーと社会	2	2	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
7	民法Ⅰ	2	2	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
8	コンピュータ概論	2	2	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
9	時事演習	2	3	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
10	移民と現代社会	2	3	一般	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
11	音楽教育史	2	2	専門	選択	国際学科カリキュラム再編成に伴う廃止(23)
12	敬愛プログラム	2	1	一般	選択	受講者なし 廃止科目(24)
13	世界の地理	2	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
14	世界の民族と宗教	2	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
15	Mother GooseⅠ	1	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
16	Mother GooseⅡ	1	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
17	ポルトガル語Ⅰ	1	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
18	ポルトガル語Ⅱ	1	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
19	朝鮮語Ⅰ	1	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
20	朝鮮語Ⅱ	1	1	一般	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
21	英米児童文学Ⅰ	2	3	専門	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)
22	英米児童文学Ⅱ	2	3	専門	選択	国際学部カリキュラム改革に伴う廃止(25)

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「こども学科」届け出後に「国際学科」のカリキュラム改正が実施され、学部共通科目等の整合性を図るため科目を整理した。
 設置開設年度当初のカリキュラム変更であるため、学生の不利益とはならないと判断した。(23)
 23年度、24年度の2年間にわたり受講者がいないため、廃止科目とした。(24)
 学部のカリキュラム改革に伴い、カリキュラムのスリム化を図り審議した結果、過去の履修者数の著しく少ない科目を廃止科目とした。(25)
 履修ガイダンスで開講科目について説明実施し、2年生以上の学生に周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

未開講科目と廃止科目の計	22	=	
設置時の計画の授業科目数の計	160		0.13

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称		敬愛大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
経済学部 経済学科	4年	260人	25人	1,065人	学士 (経済学)	倍	昭和41年	千葉県稲毛区穴川1丁目5番21号	
経済学部 経済学科	4	115	23	773	学士 (経営学)	0.72	平成25年		
経済学部 経営学科	4	110	3	223					
国際学部 国際学科	4	90	29	474	学士 (国際学)	0.7	平成19年		
国際学部 こども学科	4	70	2	262	学士 (こども学)	1.00	平成23年		
大学の名称	千葉敬愛短期大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
初等教育科	2年	150人	一人	300人	短期大学士 (教育学)	1.25倍	昭和25年	千葉県佐倉市山王1丁目9番地	
現代子ども学科	2	200	一人	400		1.10	平成26年		

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。(ただし、専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 「平均定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
- ・ 大学、短期大学においては学科単位(短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位)、大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況
 (国際学部 こども学科)

(1) 担当教員表

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	越川 浩明 (68)	平成23年4月	基礎数学 算数 数の不思議 かたちの数学 算数科指導法 3年次専門研究 4年次専門研究	専	教授	越川 浩明 (70)	平成23年4月	3年次専門研究 1年基礎演習 2年基礎演習	担当コマ数調整による減(24) 担当コマ数調整による増(24) 担当コマ数調整による増(24)
					専	講師	辻山 洋介 (36)	平成25年4月	算数 算数科指導法 かたちの数学 数の不思議 教職実践演習(小学校) 1年基礎演習 2年次専門研究 3年次専門研究 4年次専門研究	前任者の定年退職に伴う 新規採用者(25) 担当コマ数調整による減(26)
専	教授	坂東 信司 (70)	平成23年4月	初等社会科指導法 特別活動研究 生徒指導論					定年退職(24年3月)	定年退職(24年3月)
					専	教授	田村 孝 (67)	平成24年4月	初等社会科指導法 社会 異文化コミュニケーション 教職実践演習(小学校) 1年基礎演習 2年次専門研究 3年次専門研究 4年次専門研究	前任者の定年退職に伴う 新規採用者(24) 学部長就任に伴う担当科目コマ数減(26) 担当者の変更(26) 担当者の変更(26) 担当者の変更(26) 担当コマ数調整による減(26)
専	教授	田口 功 (59)	平成23年4月	コンピュータ概論 情報処理Ⅰ(情報基礎) 情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習) こどもものづくり教育 こどもとメディア こどもと科学教育 理科の観察実験Ⅱ 1年基礎演習 2年次専門研究 3年次専門研究 4年次専門研究	専	教授	田口 功 (62)	平成23年4月	コンピュータ概論 情報処理Ⅰ(情報基礎) 情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習) こどもものづくり教育 こどもとメディア こどもと科学教育 理科の観察実験Ⅱ 理科 1年基礎演習 2年次専門研究 3年次専門研究 4年次専門研究	廃止科目(23) 隔年開講 休講措置(25) 26年開講科目(26) 必修科目の担当による休講措置(24) 担当変更(25) 学部長就任に伴う担当コマ数調整のため休講措置(25) 受講者数による増コマ(25) 担当コマ数調整による減(25) 担当コマ数調整による増(24) 担当コマ数調整による減(24) 担当コマ数調整による増(26)
専	教授	澤崎 眞彦 (66)	平成23年4月	教職概論 教育原論Ⅰ 教育原論Ⅱ 音楽教育史 1年基礎演習 2年次専門研究 3年次専門研究 4年次専門研究 教育実習	専	教授	武内 清 (69)	平成23年4月	教職概論 教職概論(小学校) 教育原論Ⅰ 教育原論Ⅱ 教育課程論 音楽教育史 1年基礎演習 2年次専門研究 3年次専門研究 4年次専門研究 こどもと地域の教育論 こどもとメディア 教育実習(小学校)	教職課程再課程認定に当たり中教審より教員審査上の指導があったため担当を変更(23) 科目名称変更(26) 科目名称変更(26) 科目名称変更(26) 廃止科目 担当者の退職による(23) 担当コマ数調整による減(25) 担当コマ数調整による減(25) 担当コマ数調整による増(26) 担当コマ数調整による増(26) 担当コマ数調整による休講措置(25) 担当コマ数調整による増(26) 下記科目との隔年開講(26) 担当科目追加(25) 担当コマ数調整による増(26) 上記科目との隔年開講(26) 担当コマ数調整による休講措置(26) 担当変更(25) 担当変更(26) 池谷准教授担当
					専	教授	覚正 豊和 (64)	平成25年4月	法学入門 憲法 国際社会と犯罪 世界の人権論 こどもと法律 1年基礎演習 2年次専門研究 3年次専門研究 4年次専門研究	教員所属学科変更 国際学科からこども学科へ移籍(25) 隔年開講 休講措置(25) 担当コマ数調整による増(26) 学部共通演習科目として開講(26) 国際学科科目 担当コマ数調整による減(26) 国際学科科目 国際学科科目 担当コマ数調整による減(26)

5 教員組織の状況
(共通)

(1) 担当教員表

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	土井 修 (65)	平成23年4月	敬天愛人講座※	兼任	教授	土井 修 (67)	平成23年4月	敬天愛人講座※	担当者変更(26)担当外
兼任	教授	中山 幸夫 (54)	平成23年4月	道徳教育研究 敬天愛人講座※	兼任	教授	中山 幸夫 (56)	平成23年4月	道徳教育研究 敬天愛人講座※	小・中高別開講により担当者及び科目名変更(26) 担当者変更(24)オムニバス授業 担当者変更(25)
兼任	教授	藤田 明男 (63)	平成23年4月	健康運動科学	兼任	講師	西野 明 (45)	平成25年4月	健康運動科学	前任者の退職による担当者変更(25)
					兼任	講師	岩井 幸博 (32)	平成25年4月	健康運動科学	
兼任	教授	折原 裕 (59)	平成23年4月	近・現代の思想	兼任	教授	折原 裕 (61)	平成23年4月	近・現代の思想	廃止科目(23)
兼任	教授	藤井 輝男 (57)	平成23年4月	発達心理学 教育心理学 教育相談	兼任	教授	藤井 輝男 (59)	平成23年4月	発達心理学 教育心理学 教育相談	担当者変更(26) 田中専任講師担当(26)
兼任	講師	小林 秀樹 (39)	平成23年4月	哲学概論Ⅰ	兼任	講師	小林 秀樹 (41)	平成23年4月	哲学概論Ⅰ	
兼任	講師	小西 紀男 (70)	平成23年4月	教育法規 教育行政	兼任	講師	福田 辨 (66)	平成24年4月	教育法規 教育行政 生徒指導論	担当者変更(24) 担当者変更(25) 担当科目追加(25) 退職により担当者変更(26)
					兼任	講師	赤羽 良明 (63)	平成25年4月	教育法規 教育行政	担当者変更(25) 担当者変更(26) 担当者変更(25)
					兼任	講師	高橋 哲 (35)	平成26年4月	教育法規	担当者変更(26)新規採用
兼任	講師	上野 正道 (36)	平成23年4月	時事演習	兼任	講師	上野 正道 (36)	平成23年4月	時事演習	廃止科目(23)
					兼任	講師	白川 理恵 (42)	平成23年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	23年度より担当者決定(23)
					兼任	講師	浅野 信二 (36)	平成24年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	長戸路 政行 (81)	平成23年4月	敬天愛人講座※						
兼任	講師	館野 受男 (81)	平成23年4月	敬天愛人講座※						
兼任	講師	小出 義雄 (71)	平成23年4月	敬天愛人講座※	兼任	講師	角田 聡 (70)	平成24年4月	敬天愛人講座※	担当者変更(24)オムニバス授業
兼任	講師	松丸 明子 (64)	平成23年4月	敬天愛人講座※	兼任	教授	三幣 利夫 (68)	平成24年4月	敬天愛人講座※	担当者変更(24)オムニバス授業 担当者変更(26)担当外
兼任	講師	星 真実 (43)	平成23年4月	敬天愛人講座※						
兼任	講師	菊地 真弓 (40)	平成23年4月	敬天愛人講座※	兼任	講師	菊地 真弓 (43)	平成23年4月	社会学入門	担当者変更(25)
					兼任	准教授	金子 林太郎 (36)	平成26年4月	敬天愛人講座※	担当者変更(24)オムニバス授業 担当者変更(26)担当外
					兼任	教授	折原 裕 (62)	平成26年4月	敬天愛人講座※	担当者変更(26)オムニバス授業
兼任	講師	平野 智美 (78)	平成23年4月	敬天愛人講座※	兼任	教授	小山 幸伸 (50)	平成26年4月	敬天愛人講座※	担当者変更(26)オムニバス授業

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、**全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に**所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には**当該学部等の就任時における満年齢を**、「**変更状況**」には**平成26年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A0教員審査)を受けてください。**A0教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(A0)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
 ・ 「専任教員採用等変更書(A0)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
4	4	1	0	9	4	5	3	0	12	70	0
(4)	(4)	(1)	(4)	(9)	[]	[1]	[2]	[]	[3]	歳	名

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
- ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	澤崎 真彦	教職課程再課程認定に当たり、中教審より教員資格上の指導があったため担当者変更(23)
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

後任者は、教員資格も適格であり、教授として採用した。開設年度となるため学生への影響はないものと思われます。(23)
在学生ガイダンスにて学生に履修説明。(23)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (2010年4月)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (2011年5月)	国際学部こども学科の入学 定員超過の是正に努めること		「該当なし」
設置計画履行状況 調 査 時 (2012年5月)	「該当なし」	小学校教員養成課程を置く 「こども学科」への志願者の 増加傾向は、教育の敬愛に対 する信頼と期待であると捉え ると共に県内及び周辺都県に おいて小学校教員の採用が見 込まれ、小学校教員の養成が 必要と判断し、定員増を行っ た。(24)	「該当なし」
設置計画履行状況 調 査 時 (2013年5月)	「該当なし」		「該当なし」

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<国際学部 こども学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>記入例)</p> <p>① 修了要件単位数 124単位 必修科目〇〇単位、選択科目〇〇単位</p> <p>② 施設・設備</p> <p>a 講義室〇室 (〇㎡)</p> <p>b 自習室〇室 (〇㎡)</p> <p>c 図書〇〇冊</p>	<p>① 学生の専門性をより高めるため、必修科目(1科目・2単位)を追加。(別添〇「新旧対象表」参照)</p> <p>② 学生の修学環境を改善するため、講義室、自習室をそれぞれ〇部屋(〇㎡)増やすとともに、図書も〇〇冊増書した。</p>
<p>① 入学定員 50名</p>	<p>① 入学者 65名(23)</p> <p>本年度の入試に当たり、一般入試Ⅰ期・Ⅱ期の歩留まり率が前年度実績(地域こども教育専攻との比較)を大きく上回り1.3倍の入学者となった。次年度以降については、定員を順守するよう努めたい。(23)</p> <p>① 入学定員の変更 50名 → 70名(24) 入学者 60名</p> <p>高まる教育ニーズに対応すべく指導体制の強化(専任教員の新規採用)と教育内容の充実(各授業の少人数化)を図り地域社会の要請に応えるため入学定員を変更した。認可承認を得た時期が2月であり、募集活動を行うことが出来ない状況であったため、定員割れとなった。次年度以降については、適切な広報活動を実施し、定員確保に努めたい。(24)</p>
<p>② 平成23年度開設授業科目の年間開講数(クラス数)実習・実験・実技を伴う科目 情報処理・書写・家庭・理科・音楽(各1クラス)</p>	<p>② 入学者が予想を超えたことにより、適正な授業運営を図るため開講コマ数を増加した。左記の科目については、届出時の担当教員により1クラスを追加開講している。</p> <p>今後も事業形態・内容に照らして必要なコマ数増の措置を講じていく予定である。</p> <p>情報処理 2クラス ・ 書写 2クラス ・ 家庭 2クラス 理科 2クラス ・ 図工 2クラス (23)</p> <p>② 入学定員増を行ったことにより、実験・実習を中心とする授業科目を前年度に比してさらに1コマ増加し、きめ細かな授業実践に努めた。(24)</p>
<p>③ 電子ジャーナル21種</p>	<p>③ 電子ジャーナル(データベース契約)について、日経テレコンとは、2種の(定額制と重量制)契約を締結しており、重量制を利用することにより、毎日新聞・産経新聞の利用が可能となり、2社との契約を締結しなかったため19種となった。(23)</p>
<p>④ 参観実習の実施</p>	<p>④ 4年次の教育実習に向け、事前指導の一環として、参観実習を義務付けている。主に千葉市内の小学校(7校)の協力を得て9月に実施し、教員を目指す学生の意識・意欲の向上の一助となっている。(24)</p>
<p>⑤ 補習授業の充実</p>	<p>③ 教員を目指す学生の学力向上、質の向上を目的とした、専任教員による正規授業科目とは別に小学校の主要4科目の補習を(4年生対象)授業終了後に実施している。(25)</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

「敬愛大学FD委員会規程」(平成20年4月1日)を制定した。この規程に基づき、学長を中心とするFD委員会を設置した。

敬愛大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程 (規程の転載)

(目的)

第1条 この規程は、敬愛大学学則第2条第5項の規定に基づくFD活動を推進するために敬愛大学FD委員会(以下「委員会」という。)の運営等について定める。

(構成)

第2条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 学長
 - 二 各学部長
 - 三 教務部長
 - 四 各学部の教務委員長
 - 五 学長が委嘱する委員 若干名
- 2 委員長は学長とし、副委員長は学長が指名した委員をもって充てる。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 委員会は、各学部のFD活動が持続的に実施されるよう次の事項について審議する。

- 一 FD活動の企画立案に関する事項
- 二 FD活動の実施計画の立案に関する事項
- 三 FD活動の評価に関する事項
- 四 FD活動に関する情報収集と提供に関する事項
- 五 その他FD活動の推進に関する事項

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。
- 3 委員長が必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。
- 4 委員長は、委員の過半数をもって成立し、出席者の過半数により議決する。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、修学支援室が処理する。

(改廃)

第6条 この規程は、委員会の議を経て大学評議会の承認を要する。

附 則

- 1 この規程は、平成20年 4月 1日から施行する。
- 1 この規程は、平成21年11月 1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 第1回FD委員会（平成21年12月22日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長（学長補佐）、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第2回FD委員会（平成22年 2月23日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長（学長補佐）、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第3回FD委員会（平成22年3月30日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長（学長補佐）、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第4回FD委員会（平成22年5月25日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長（学長補佐）、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第5回FD委員会（平成22年9月21日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長（学長補佐）、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第6回FD委員会（平成23年3月1日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長（学長補佐）、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第7回FD委員会（平成23年5月24日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第8回FD委員会兼学園合同研修会（平成23年8月22日）
出席者：敬愛大学全教員、千葉敬愛短期大学全教員
- ・ 第9回FD委員会（平成23年10月4日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第10回FD委員会（平成23年12月6日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長
- ・ 第11回FD委員会（平成24年6月12日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長、学生部長、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長、武内教授
- ・ 第12回FD委員会（平成24年10月11日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長、学生部長、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長、武内教授
- ・ 第13回FD委員会（平成25年6月4日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長、学生部長、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長、武内教授
- ・ 第14回FD委員会（平成25年10月22日）
出席者：学長、経済学部長、国際学部長、教務部長、学生部長、経済学部教務委員長、国際学部教務委員長、武内教授

c 委員会の審議事項等

- ・ 第三者評価に関する事項
- ・ 他大学のFD活動の研究に関する事項
- ・ 平成23年度のFD活動に関する事項
- ・ 学生による授業評価に関する事項
- ・ FD研修会に関する事項
- ・ その他、今後のFD活動の運営に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

1. 授業評価アンケート

- ・ 学生による授業評価アンケートとして実施した。
- ・ 昨年に引き続き、学生による授業評価アンケートを実施し、そのアンケートを基に担当者に授業改善を求めた。

2. 授業参観の実施

- ・ 教員相互の授業参観を実施し、参観後に報告書の提出を義務付けている。

3. FD講演会

- ・ FD活動と大学の教育力向上について理解を深めるための啓蒙活動として実施した。
- ・ 3. 11の東日本大震災を教訓とした、大学の安全管理・危機管理能力向上についてについて理解を深めるために実施した。
- ・ 国内外の動向や背景など大きな流れを踏まえた上で「大学改革実行プラン」の講演を基に大学の機能の再構築と大学ガバナンスの充実・強化の必要性の再確認のため実施した。
- ・ キャンパス内で認識の希薄さによるアカハラ、教育現場としての人間関係の特殊性に注目し、被害者と行為者の視点を再認識するために実施した。

4. FD研修会

- ・ 初年次教育としての1年「基礎演習」のあり方について理解を深めるために実施した。
- ・ 現代大学生の生活と意識調査を分析し、学生に対する理解を深めるために実施した。
- ・ 昨年の分析を基に「敬愛大生の素顔」をテーマに本学学生の行動を理解するために実施した。
- ・ 再度原点に戻り、「建学の精神(敬天愛人)」を全教職員に浸透させることを目的として実施した。

5. 学生満足度調査

- ・ 学生による大学の生活実態調査をアンケート調査として実施した。
- ・ 昨年に引き続き、学生による大学の生活実態調査をアンケート調査を実施した。

b 実施方法

1. 授業評価アンケート

- ・ 全教員（専任、非常勤）が実施することを原則とした。
- ・ 演習・オムニバス・特別教育科目を除いて、開講科目すべてについて実施した。
- ・ 学生の回答は無記名方式とし、授業評価アンケートが当該科目の評価に影響しないように配慮した。

2. FD講演会

- ・ 濱名篤氏（関西国際大学学長・理事長）を講師として、全教職員に対して以下のテーマで講演を実施した。（平成22年6月29日）
テーマ：大学の教育力を高める者は何か ―関西国際大学初年次教育からの提言―
- ・ 堀口瑞穂氏（SUPPORT 代表）を講師として、大学、短期大学の全教職員に対して以下のテーマで講演を実施した。（平成23年8月22日）
テーマ：私立学校の教職員がもつべき危機管理意識（東日本大震災を教訓として）
- ・ 小林雅之氏（東京大学大学総合研究センター）を講師として、大学、短期大学の全教職員に対して「大学改革の動向と大学改革実行プラン」のテーマで講演を実施した。（平成24年8月21日）
- ・ 北上真理子氏（公益法人21世紀職業財団 常勤講師）を講師として、大学、短期大学の全教職員に対して「キャンパスにおけるハラスメント防止のために」のテーマで講演を実施した。（平成25年8月21日）

3. FD研修会

- ・ 高田洋子（国際学部教授）、畑中千晶（国際学部准教授）を講師として、以下のテーマについて講演と事例報告を行い、初年次ゼミの重要性について周知を図った。（平成22年11月30日）
テーマ：初年次教育としての「1年基礎演習」をどう運営するか。
- ・ 折原経済学部教務委員長、高橋国際学部教務委員長を講師として、以下のテーマについて講演と事例報告を行い、リメディアル教育の必要性を再認識した。（平成23年6月21日）
テーマ：リメディアル教育の現状と課題
- ・ 武内 清（国際学部教授）を講師として、学生のアンケート集計を基に、以下のテーマについて講演と事例報告を行い、今後の大学のあり方について再考するものとする。（平成24年2月24日）
テーマ：現代大学生の生活と意識
- ・ 学内教員の調査取りまとめ基調報告（平成25年2月26日）
高橋 和子教授 「敬愛大学生の学生実態調査概要 ―日本人学生と留学生、学科の違いにも注目して―」
「授業満足度向上のために ―満足度を決めるものは？―」
藤井 輝男教授 「大学生の意識と満足度 ―学年の違いを中心に―」
武内 清教授 「敬愛大学学生調査から ―これからの大学教育を考える―」
田中 未央講師 「大学に対する学生の要望についての実態調査」 ―KJ法を用いた調査の試み―
- ・ 共愛学園前橋国際大学 副学長 大森 昭生 先生を講師として迎え「アクティブラーニングから生まれる文化と空間」の講演会を開催（平成26年8月21日）
- ・ 「建学の精神に立ち返り」（平成26年2月10日）
千葉敬愛学園 学園長 長戸路 先生、長戸路学園 理事 角田 先生を講師として迎え
建学の精神（敬天愛人）の浸透を目的として実施した。

4. 学生満足度調査

- ・ ゼミの授業時間中、所属学生に対し無記名による大学満足度調査を実施し、FD研修会の検討資料とした。

c. 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 授業評価アンケート

- ・ 両学部の全教員が該当科目についてアンケートを実施した。
- ・ 厳格に実施するため、アンケート回収直後に事務局に持参することを周知徹底した。

2. FD講演会・FD研修会

- ・ 全専任教員（出張、公務等で不在の者を除く）が参加した。
- ・ 窓口対応等で席を外せない者を除いて、多くの事務局職員も参加した。

d. 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 授業評価アンケート

- ・ 学生の回答（選択式）、要望（記述式）を踏まえた「授業改善報告書」の提出を義務付ける。
- ・ 教員は、授業アンケートの実施、集計結果の確認、「授業改善報告書」の提出等通じて、次の評価に向けて授業の改善を図ることに努めている。

2. FD講演会・FD研修会

- ・ 初年次ゼミが初年次教育の中核であることを理解するとともに、初年次ゼミの内容および方法について教育（授業）実践を通じて継続的に研究、検討を重ねていくことの必要性を確認した。
- ・ 現代大学生の実態調査を通じて、今の学生気質を把握することにより中退抑止等学生指導の充実に努める。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 両学部の全教員が該当科目についてアンケートを実施した。
- ・ 厳格に実施するため、アンケート回収直後に事務局に持参することを周知徹底した。
- ・ アンケートの実施は、最終講義日に実施し、結果を集計し次年度以降の授業改善に繋がるようにした。

b 教員や学生への公開状況，方法等

- ・ 授業開始に合わせて、アンケートの集計結果を全教員に配布し、併せて学内において全教職員が閲覧可能とした。
- ・ 図書館内に授業評価を集計した冊子を配架し、学生が閲覧可能とした。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学則第2条第3項の規定に基づき、教育・研究水準の向上と活性化を図る目的とし、これらを全学的な委員会、教育研究部会及び管理運営部会を通じて達成を図った。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成27年4月 公開

b 公表方法

- ・大学ホームページ上での公開
- ・私立大学協会加盟大学、千葉県内の大学及び近隣図書館等に各1冊を配布

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成26年3月28日に大学基準協会へ提出した。

(注) ・ 届出時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (2014年 10月 1日)